

# 保育界

2015  
9



発行 日本保育協会

## 自然の壁

公益財団法人 日本生態系協会  
教育研究センター長 田邊龍太

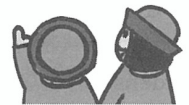
自然との触れ合いは、思いやる心、命やものを大切にする心を育みます。

こうした“自然の保育力”を活かすためには、園児が普段生活する範囲内に自然と触れ合う空間を設ける必要があります。ここでは園庭ビオトープの施工や管理活用のノウハウをご紹介します。



当協会がコーディネートし、園庭ビオトープの一環として、フェンスにアケビをはわせた川崎市内の保育園（神奈川県）

### 『壁やフェンスを遊び空間に』



園舎の壁やフェンスにツル植物をはわし、自然の壁をつくりましょう。この自然の壁は、園児が地域本来の自然を感じ、花や実を摘んだり、チョウやカマキリなどの野生の生きものを探したりする遊びの空間になります。

このとき植えるツル植物は、地域の自然に本来生える種類を選びます。例えば、スイカズラの花は、初夏に甘い匂いを漂わせます。花を摘んで吸うと甘い蜜が口の中に広がります。アケビの実には山の秋を感じさせます。果肉はそのまま、果皮は炒めたりして食べると美味しく、自然の恵みを感じる機会になります。初冬に橙色が映えるカラスウリの実は、ままごとの格好の材料になります。

地域在来のツル植物の中から、このように花の匂いが良いもの、実がなるものなど複数の種類を選ぶことをお奨めします。季節ごとに園児の五感を刺激する空間になります。特に敷地に限りがある都市域の園こそ、壁やフェンスを有効に活用したいものです。

#### ■日本保育協会ほか後援『こども環境管理士資格試験』10月10日（土）申込締切

（公財）日本生態系協会では、園児の豊かな感性を育むために、自然について正しい知識をもち、自然がもつ保育力を積極的に活かすことができる保育士、幼稚園教諭、支援者を「こども環境管理士」として認証しています。現在、認証者は約1,000人。詳しくは、こども環境管理士資格試験のサイトをご覧ください。